



衣川 正作

渡来人いずこより 『銅の釜』

漢の武帝は紀元前 108年に朝鮮半島に楽浪郡（らくろうぐん）を設置し、現在の平壤特別市に郡治（ぐんち）を置きました。ほかに、真蕃郡（しんばんぐん）臨屯郡（りんとうぐん）、玄菟郡（げんとぐん）が設置されましたが、事実上統治の手が回らず放棄され、紀元前75年に楽浪郡に集約されたのです。この楽浪郡の設置は、当時の大帝による周辺民族制圧の結果です。その一方で、これを契機に朝鮮半島南部および日本列島は「高度な文明」が流れ込むことになり、朝鮮半島南部では、馬韓50余国、弁韓12国、辰韓12国の中から百濟（くだら）、加耶（かや）、新羅（しらぎ）が台頭しました。

このように楽浪郡の設置は、東夷社会が国家形成の第一歩を踏み出すきっかけを作ったのです。しかし、楽浪郡は自らが蒔いた「文明」によって成長した周辺民族によって苦しめられ、313年に高句麗によって滅亡させられました。

この特別展の最初の展示品は楽浪郡郡治から出土した丸瓦と銅製の釜と甑（こしき）です。私が興味を持ったのは一対になった銅製の釜（銅鍍＝どうふく）と銅甑（どうそう）。特に釜（銅鍍）には青銅特有の青緑色の錆の他に3cmほどの丸い鉄の赤錆が見えました。説明文には：銅鍍（どうふく）いわゆる釜で、ここに水をいれて加熱し、上に重ねる甑（こしき）に蒸気を送るためのものです。小さな平底の底部に胴部は算盤玉のように角張ってはり出す形態です。ところどころに見える鉄錆は、この銅鍍を鑄造する際の型持ちです。

この銅製の釜も磁石につくに違いない。そう思って所有者の天理大学附属天理参考館に質問事項を5月8日にメールしました。

質問1. この鉄錆び部分は磁石につきますか？

質問2. 型持ちに鉄を使った例は他にもありますか？

特別展終了後、6月22日に学芸員の日野 宏 様からのご回答を頂きました。赤錆び部は磁石につくこと。型持ちと思われる磁石につく部分が36ヶ所もあったそうですが、どんな製造法だったのでしょうか。ご協力ありがとうございました。

実は2年ほど前から、姫路の近くに残る梵鐘に興味を持ち、現物を見て回っています。その中に青銅で出来た梵鐘が磁石につく所があることを発見。亀山本徳寺（姫路市）や住吉神社（西脇市比延町）、以来梵鐘見学には釣り竿の先端に強力なネオジム磁石を取り付けた手製の鉄検出機を持って行きます。写真は曾根神社（高砂市）観音堂にある元禄10年に作られた、朝鮮鐘の内部です。磁石につく型持ちが4ヶ x 2列、8ヶ見えます。

参考図書

特別展 渡来人いずこより 大阪歴史博物館 図録 2017.04.26
天理大学附属天理参考館

<http://www2.memenet.or.jp/kinugawa/>
ryou@memenet.or.jp



当時の東アジア

銅の釜とこしき



曾根神社 観音堂 梵鐘



型持ち

『鉄のふしぎ博物館』
来て！見て！ふれて！ ふしぎ体感